

**狛江市立狛江第五小学校  
令和4年度校内研究**

**「KAKETA!!～具体と抽象を往還する子供たち～」**

**学習指導案集**

# 目次

## I.低学年分科会

1.低学年分科会提案	3
2.第2学年学习指导案	4~7
3.中学年分科会提案	8
4.第3学年学习指导案	9~12
5.第4学年学习指导案	13~17
6.高学年分科会提案	18
7.第5学年学习指导案(1)	19~23
8.第5学年学习指导案(2)	24~26
9.第6学年学习指导案	27~30

## 低学年分科会提案

### 分科会仮設

児童が自分の知らせたい事柄を相手に伝わるように文章を書く学習を通して、「はじめ」「中」「終わり」の構成の良さや書くことの観点に気付くことができれば、語と語や文と文とのつながりに気を付けて文章を書くことができるようになるだろう

児童が相手意識をもって相手に伝わるように自分の気持ちや紹介したい事柄をより詳しくすることができれば、紹介したい事柄と紹介したい内容で具体と抽象を往還する文章を書くことができるだろう。

### 手立て

#### ○紹介したい事柄を伝える相手の提示

低学年の児童にとって、はっきりとした目的をもって文章を書く学習活動は、児童が主体的に学習に取り組むために効果的と考える。そこで生活科単元と関連させ、五小で見つけた生き物や植物、見つけた場所を伝えたい相手（新一年生や友達）に伝えるという学習のめあてを提示して、具体的な相手意識をもたせるようにする。

#### ○観察メモの観点の共有による抽象的事柄の具体化

教師の例文を提示して、どんな観点があれば相手に伝わりやすい文章になるか、学級全体で共有して考える活動を通して、児童自ら考えた観点で観察メモを書くようにする。相手に伝えたい「五小の芝生」、「五小の生き物」、という抽象的事柄を、相手に分かりやすい観点（見つけた場所や芝生の特長、生き物の様子、自分の思いなど）に具体化していく。

#### ○観察メモから文章にしていく過程での抽象と具体の往還

2年生は、組み立てメモを作り、伝えたいことを組み立てメモの中で具体的に表現する。組み立てメモの中の部分を並べ替える活動を通して、伝えたい思いを適確に表現させる。

1年生は、具体化した観察メモを事柄ごとの観点のまとまりに分け、短冊カードに書いて文章化していく。さらに、短冊メモを伝えたい順番に並べかえる活動を通して、自分が伝えたい思いを明確化させる。

#### ○感想カードやタブレットによる交流

2年生は、コラボノートを活用してお互いの組み立てメモや完成した作品を見合って交流する。1年生は、書いた文章を家庭学習で家族にみてもらい感想カードを書いてもらう。また、友達と読み合い感想カードを書いて交流する。

**国語科学習指導案**  
**研究主題：KAKETA！！**  
**—具体と抽象を往還する子供たち—**

日 時 令和4年9月14日(水)

5 校 時 13:45～14:30

学校名 狛江市立狛江第五小学校  
 対 象 第2学年2組 30名  
 会 場 2階 2年2組教室  
 授業者 教諭 清水 亮輔

1 単元名 組み立てを考えて書き、知らせよう

「こんなもの、見つけたよ」(光村図書 国語二上)

2 単元の目標

- ・ 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕
- ・ 句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使うことができる。〔知識及び技能〕
- ・ 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 文章に対する感想を伝え合い、自分や友達の記事の内容や表現のよいところを見付けて伝え合うことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 進んで、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して報告する文章を書こうとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

- ・ 身近なことや経験したことを報告する文章を書く。  
 (関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ア)

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ② 句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。	① 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 ② 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 ③ 文章に対する感想を伝え合い、自分や友達の記事の内容や表現のよいところを見付けている。	① 進んで、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。

## 5 指導観

### (1) 単元観

- 小学校学習指導要領解説国語編第2学年の情報と情報との関係「共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。」及びB書くこと(1)ア「経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。」を受けて設定した。
- 児童が知らせたいと思った事柄を見付け、「初め」「中」「終わり」の簡単な構成を考えることができるようになることをねらいとする。

### (2) 児童観

- 本学級の児童は、1学期の説明文の単元で調べたことを発表する学習活動を行っている。本単元では、友達におすすめの場所を伝えるために自分の考えを明確にして伝える学習活動を行う。
- 「書くこと」に関する意識アンケートでは、「文章を書くことは好きですか」の質問に対し、およそ8割の児童が肯定的な回答をしている。
- 前単元「メモをとるとき」では、メモは短く書き、相手に伝えたいものを書くことを学んでいる。「きょうのできごと」「かんさつ名人になろう」では、観察のポイント、日記に書く時は、人から聞いたことや自分が話したこと、感じたことを書くことを学んでいる。
- 本単元では知らせたいことを文章で書き、友達にその文章を読んで感想を伝え合う活動を設定している。友達に認めてもらうことで「知らせたいことを文章で書いてよかった。」という意欲や「具体的に書くことで友達がわかってくれた」という気づきにつなげ、今後の書く力につなげていきたい。

### (3) 教材観

本教材は公園の伝えたいものの組み立てメモと紹介文について書かれている。児童にとって、公園等を自分の勧める場所を伝えることは、経験したことから必要な事柄を集めるので考えやすいだろう。また、伝えたいと思って書く文章だからこそ、交流の意欲も高まると考える。友達の着眼点や表現、構成などに対するの感想を積極的に伝え合わせたい。

## 6 研究主題との関連

### (1) 具体化・抽象化思考力を高めるための手立てについて

本単元においては、「抽象(=知らせたい場所)」と「具体(=おすすめのポイント)」を関連付ける。聞き手がより理解を深めるためには、知らせたい場所という抽象的な観念から「おすすめの理由」「おすすめポイント」などに具体化していく。

単元のはじめに担任が伝わりにくいおすすめ場所の文を提示する。児童たちは読む中で疑問に感じさせ、どんなことが書かれていれば読み手が行きたくなるかを考えさせる。具体的できることや自分の思いを入れる必要性に気づかせ、書く活動につなげていく。

練習単元では新一年生に芝生のことについて、本単元ではクラスの友達におすすめの場所を紹介する文を考える。友達や新一年生を対象にすることで、共通点が多いことであったり、自分が一年生の時の経験であったりと考えやすい。また、相手意識を明確にすることで、おすすめの場所には何があったか、どんなことを伝えれば相手は興味をもつのかと考えることで具体と抽象を往還すると考えた。

## (2) タブレットの活用

子供たちは夏休み中にタブレットを使い、伝えたい場所の写真を撮ってきている。写真を見ながら紹介文を考えることで、友達に伝えたいおすすめのポイントが深まることやどんな言葉を使うと相手に伝わるかを振り返ることができる考えた。

写真機能の他に、コラボノートを使って共有機能を活用していく。コラボノートは撮った写真をノートに貼ることができ、使用者はその撮った写真を見ることができる。作品を共有するのに隣同士や全体で発表すると時間がかかり、一人一人の考えを聞いていくのが難しい。時間短縮と多くの児童が考えの共有ができるようにしていく。

## (3) 具体化・抽象化思考を高めるための「書くこと」の重点について

### ③内容の検討 ④構成の検討

#### 7 単元の指導計画と評価計画(全11時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準 (評価方法)
家庭		○知らせたい場所の写真を撮る。	
1	○ 単元の目標を確認し、学習の見通しをもつことができる。	○ 学習の見通しをもたせるためにどんな手順で学ぶのかを確認する。	
2	○ 「初め」「中」「終わり」の構成を理解することができる。	○ 中の部分が抜かれたモデル文を読み、どんな観点を加えたらよいか考える。 ○ 組み立てメモを見せ、観点を確認する。 ○ モデル文を完成させ、どのような構成になると聞きたくなる文になるかを確認する。	
3 (本時)	○ 芝生を紹介するための組み立てメモを書くことができる。	○ 新一年生が興味をもって聞いてもらうための中の部分を考える。 ○ 「初め」「中」「終わり」の文章構成を確認する。	アー①
4	○ 組み立てメモを元に芝生の紹介文を書くことができる。	○ 組み立てメモを元に紹介文を書く。	
5	○ 芝生の紹介文を発表し、感想を伝え合うことができる。	○ 発表を聞き、興味をもって聞く文にするにはどのような内容がよいかを考える。	
6	○ 写真から何を知らせたいかを決め、メモをすることができる。	○ 写真からその場所には何があるのか、友達とどんなことができるのかを書く。 ○ 友達とメモを読み合い、メモを詳しくしていく。	ウー①
7・8	○ メモをもとに、組み立てを考えることができる。	○ 「初め」「中」「終わり」の構成を理解し、メモをもとに組み立てて書く。具体的な知らせたいことは「中」に書く。	
9	○ 構成を意識して文書を書くことができる。	○ 組み立てから文章を書く方法を考える。	
10	○ 書いた文章を読み返して、句読点やかぎを正しく使えているか確かめ、間違いを直すことができる。	○ 教材文を参考に、句読点やかぎの使い方を確認する。	アー①
11	○ 友達と文章を読み合い、感想を伝え合うことができる。	○ 自分の作品の写真を撮り、コラボノートで共有する。 ○ 友達の発表を聞いて初めて知ったことや、分かりやすかったこと伝える。 ○ 単元の学習を振り返り、文章を書く時に大切なことを振り返る。	イー③ ウー①

## 8 本時(10時間中の第3時)

### (1) 本時の目標

○芝生を紹介するための組み立てメモを書くことができる。

### (2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○本時のめあてを確認する。	◇文章を書く目的を確認する。 ◇新一年生を意識して書く内容を考えることを確認する	
展開 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">しばふをしようかいるためのくみ立てメモを書こう。</div> ○中の部分がない「芝生」について の話を聞き、どんな言葉が入れば 分かりやすくなるかを考える。  ○全体で芝生のよいところを考 える。  ○ワークシートに組み立てメモを 書く。  ○発表	◇聞き手が行きたくなるように するために、具体的に何がよ いかを考えさせる。  ◇活動に見通しをもてるように する。  ◇コラボノートに組み立てメモ の写真を貼り、共有できるよ うにする。	イ① (ワークシート) 自分の経験から芝生のお すすめポイントを組 み立てメモにして書い ている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力につい て、めあてとの関連を意識し て記述するよう促す。	

## 9 研究の視点

○本時の学習活動にみられる子供の姿は、具体と抽象を往還しているものであったか。

○本時の学習は、児童の「書くこと」の「③内容の検討」「④構成の検討」に関わる力を高められる内容であつたか。

## 中学年分科会提案

### 分科会仮説

児童が説明的な文章を読む学習を通して文章の構成などについて理解を深めることができれば、構成を意識して文章を書くことができるようになるだろう。

児童が説明的な文章を書く時に自分が伝えたいことと調べて分かったことを整理することができれば、「初め」「中」「終わり」で具体と抽象を往還する文章を書くことができるだろう。

### 手立て

#### ○カリキュラムマネジメントによる単元の目標の実現

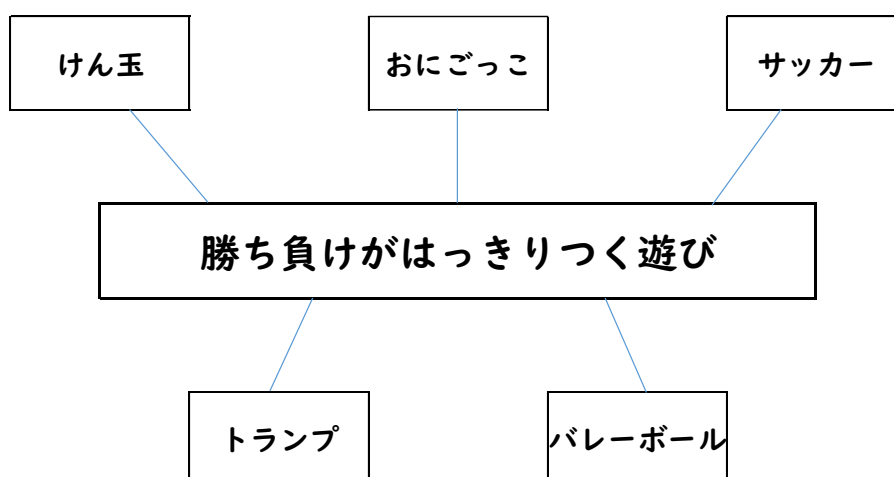
練習教材（段落構成の説明）、本教材、発展教材（「書くこと」のに関連する力の育成）の取り扱い順を入れ替え、導入に発展教材を扱う。これにより、本単元で身に付ける力（具体的な事象を抽象化して書く力）を児童に明確に意識させる。本教材、練習教材の順に取り扱い、例と筆者の考えが定型化して書かれた段落構成への理解を深める。最後に再び発展教材を取り上げ、「書くこと」に関連する力を効果的に身に付けられるようにする。

#### ○具体化しやすい題材の精選

本単元においては、自分の好きな遊びの種類という複数の具体的な事象から、自分の好きな遊びの系統へ抽象化する。児童にとって身近な題材を取り上げることによって、具体的な事象を想起しやすくする。あわせて、複数の事象の中に共通点を見出し、それをより簡潔な言葉に変換することで抽象化を図りやすくする。

#### ○思考ツール（ワークシート）の活用

「書くこと」の活動において、思考ツールとしてワークシートを用いる。自分の好きな遊びの系統（抽象）とそれを支える事例としての遊びの種類（具体）を、児童が明確に把握できるようにする。具体と抽象を意識しながら記述する中で、具体化・抽象化思考力を高める。





**国語科学習指導案**  
**研究主題：KAKETA！！**  
**—具体と抽象を往還する子供たち—**

日 時 令和4年6月22日(水)

5 校 時 13:30～14:15

学校名 狛江市立狛江第五小学校  
 対 象 第3学年2組 31名  
 会 場 2階 3年2組教室  
 授業者 主任教諭 伊藤 麻子

1 単元名 段落とその中心をとらえて読み、組み立てを考えて書こう  
 「こまを楽しむ」(光村図書 国語三上)

2 単元の目標

- ・ 段落の役割について理解することができる。〔知識及び技能〕
- ・ 全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕
- ・ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由やこれとの関係などについて、叙述を基に捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

- ・ 説明する文章を読み、考えたことを伝え合う。  
 (関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア)
- ・ 調べたことを報告する文章を書く。  
 (関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ア)

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①段落の役割について理解している。 ②全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	①段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由やこれとの関係などについて、叙述を基に捉えている。 ②書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ③自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	①粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約し、学習課題に沿って分かったことや考えたことを説明しようとしている。 ②粘り強く、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。

## 5 指導観

### (1) 単元観

- 小学校学習指導要領解説国語編第3学年のC読むこと(1)ア「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由やこれとの関係などについて、叙述を基に捉えること。」及びB書くこと(1)イ「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。」を受けて設定した。
- 段落や「初め」「中」「終わり」など、文章のまとまりを意識して読むことを学び、今後の説明的な文章の学習の基礎となる内容を身に付けることをねらいとする。
- 相手に伝わるように、教材文で学習した段落や「初め」「中」「終わり」などの文章のまとまりを意識し、事柄ごとに段落を分けることで、構成を工夫することができるようになることをねらいとする。

### (2) 児童観

- 本学級の児童は、第2学年以降、調べたことを報告する学習活動を行っている。本単元では、自分の考えを明確にしたうえで調べたことを正確に報告する学習活動を行う。
- 前単元「もっと知りたい、友だちのこと」では、相手にはっきりと伝えるために主語や述語をはっきりさせることが大切であることを学んでいる。また、話の初めに、話題の中心を置くことや、質問をする時には「何が」や「どのように」、「なぜ」といった質問のキーワードを使うことも有効であると学んでいる。  
本単元では、教材文を段落相互の関係に着目して読むことを通して、相手に分かりやすく伝えるための文章の構成について学習する。さらに、学習した文章の構成を意識して、自分が調べたことについて書く活動を行うことで、構成を検討する力を身に付けさせたい。
- 「書くこと」に関する意識アンケートでは、「文章を書くことは好きですか」の質問に対し、およそ80%の児童が肯定的な回答をしている。
- 「文章を書くことは得意ですか」の質問に対しておよそ70%の児童が肯定的な回答をしている。
- 文章を書いたり、まとめたりすることを好きな児童が80%程度いる。
- 5分間でかける文字数の平均は65文字である。

### (3) 教材観

本教材文は、1年生の生活科の学習で実際に遊んだことがあるこまについて扱っている。児童にとっては、経験に基づいて興味深く読み進めていくことができる内容であると考えられる。また、日本文化に興味をもつ入り口としても活用できる。文章の構成も、具体的なこまについて書かれている「中」と、こま全体について抽象的に書かれている「初め」「終わり」となっていて、児童にとって理解しやすくなっている。

教材文で興味をもった日本文化について、昔遊びを題材にして書く活動を行う。

## 6 研究主題との関連

### (1) 具体化・抽象化思考力を高めるための手立てについて

本単元においては、「抽象(＝昔遊びについて自分が伝えたいこと)」と「具体(＝調べて分かった事実)」を関連付ける。昔遊びという抽象的な概念から、けん玉やすごろくなどに具体化していく。さらに、昔遊びについて自分が伝えたいことを問いの文にしてより具体化していく。そして、調べた事実を問いの答えにすることで具体化を進めていく活動を通して、具体化・抽象化思考を高める。

活動の中ではタブレット端末を活用し、他の児童の活動内容を共有できるようにする。情報の整理に対してメタ的な視点をもたせることで、子供たち自身に「具体化・抽象化思考力」を意識させたい。

### (2) 具体化・抽象化思考を高めるための「書くこと」の重点について

- ③内容の検討
- ④構成の検討

7 単元の指導計画と評価計画(全11時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)
1	単元の目標を確認し、学習計画を立て、自分が書くことを選ぶことができる。	○学習課題・学習計画を立てる。 ・日本の伝統的な昔遊びに興味をもち、学習課題を設定する。 ・自分が調べた昔遊びの説明文を書くために教材文を読むことを確認し、学習計画を立てる。  ○調べる昔遊びを決める。 ・自分が知っている昔遊びについて〇〇を使って整理する。 ・整理した昔遊びから自分が書きたいと思う昔遊びを決める。	ウー②
家庭		○個人で昔遊びについての情報を集める。	
2	段落の役割や「初め」「中」「終わり」の文章構成について理解することができる。	○教材文を通読し、二つの問いを捉え、問いと答えの関係や具体と抽象の違いを手掛かりにして段落と「初め」「中」「終わり」の文章構成を確認する。	アー①
3・4	全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。	○問いに対する答えを手掛かりにして、中心となる言葉や文を確かめて、整理する。 ○整理した情報を基に、教材文の「中」にあるそれぞれの段落を要約する。	アー② ウー①
5・6 7		○教材文の「中」にあるそれぞれのこまについて簡単にまとめる。	
8	段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由やこれとの関係などについて、叙述を基に捉えることができる。	○教材文の「終わり」が、「中」をどのようにまとめているかを確認し、筆者がたくさんのこまを紹介した意図を考える。	イー① ウー①
家庭	思考ツールを活用して自分の調べたことを整理する。	○調べた内容を整理し、何について書くのかを考えてくる。	
9 (本時)	書く内容の中心を明確にすることができる。	○自分が紹介する昔遊びについて伝えたいことと問い、詳しい内容を整理する。	イー②
10	内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。	○教材文の「初め」「中」「終わり」の構成を確認して、自分の説明文の文章構成を考える。	イー②
家庭		○個人で説明文を書いてくる。	
11	書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。	○観点に沿ってペアやグループで文章を読み合い感想や意見を伝え合う。 ○単元の学習を振り返り、自分の文章のよいところを確認し、今後への生かし方を考える。	イー③ ウー②

## 8 本時(11 時間中の第 9 時)

### (1) 本時の目標

○書く内容の中心を明確にすることができる。

### (2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○本時のめあてを確認する。	◇文章を書く目的を確認する。 ◇前時までに読み取った教材文のよさを生かすことを確認する。	
しょうかいする昔遊びについてせいりしよう。			
展開 35分	○自分が紹介する昔遊びについて伝えたいことを書く。  ○自分が紹介する昔遊びについて、どんなことを紹介するのかを書き、紹介することについての問いの文を考える。  ○自分が紹介する昔遊びについて調べてきた詳しい内容について短い文で整理する。	◇昔遊びという抽象概念から、まず自分が紹介する昔遊びと伝えたいことに具体化する。 ◇紹介する昔遊びについて「遊び方」や「種類」、「つくりの工夫」など中心となる話題を選べるようにする。 ◇中心となる話題に合致する問いのキーワードを選べるようにする。  ◇調べてきたことを基に中心となる話題を整理する時に、紹介する順番を、例えば「みんなが知っていそうな順番」にするなど意図的に決めるとよいことを伝える。 ◇タブレット端末を活用し、書けた内容を撮影し、共有することができるようにする。 ◇他の児童の内容も参考にしてよいことを知らせたり、途中で整理の仕方を再度確認したりして、進捗や方針を確認する。	イ① (ワークシート) 集めた情報を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にすることができている。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。  ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	

### (3) その他

## 9 研究の視点

○本時の学習活動にみられる子供の姿は、具体と抽象を往還しているものであったか。

○本時の学習は、児童の「書くこと」の「③内容の検討」「④構成の検討」に関わる力を高められる内容であったか。

**国語科学習指導案**  
**研究主題：KAKETA！！**  
**—具体と抽象を往還する子供たち—**

学校名 狛江市立狛江第五学校  
 対象 第4学年

1 単元名 筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう  
 「アップとルーズで伝える」(光村図書 国語四上)

2 単元の目標

- ・ 考えとそれを支える理由や事例との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕
- ・ 段落の役割について理解することができる。〔知識及び技能〕
- ・ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

- ・ 筆者の考えを捉えて、自分の考えを発表する。  
 (関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア)
- ・ 事例や理由を挙げながら自分の考えを書く。  
 (関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ア)

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 考えとそれを支える理由や事例との関係について理解している。 ② 段落の役割について理解している。	① 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 ② 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 ③ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	① 考えとそれを支える理由や事例との関係などを捉えることに積極的に取り組み、学習課題に沿って自分の考えを発表したり書いたりしている。

## 5 指導観

### (1) 単元観

- 本単元は、小学校学習指導要領解説国語編第4学年のC読むこと(1)ア「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について叙述を基に捉えること」及びB書くこと(1)ウ「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること」を受けて設定した。
- 対比的な段落関係をつかみ、それを含んだ文章全体の構成を捉える中で考えとそれを支える理由や事例の関係を明確にしながらかみ取りの力を身に付けさせることをねらいとする。
- 文章を読んで学んだことを活かして、理由や具体例を示しながら自分の考えを書く力を身に付けさせたい。

### (2) 児童観

- 本学年の児童は、第3学年の説明文単元で「段落」を意識することや、「初め・中・終わり」に気を付けて読むことなどを学習してきている。それらを踏まえ、本単元では筆者の考えとそれを支える具体的な例との関係に気を付けながら、段落同士の関係を読み取っていく。
- 第3学年の「これがわたしのお気に入り」の学習では、伝えたいことについて理由を挙げて説明する文章を書く学習をした。本単元では、理由や具体的な例を挙げて自分の考えを伝える文章を書く。
- 本学年の児童を対象に実施した「書くこと」に関する意識アンケートでは、「文章で書くときに難しいと感じることは何ですか。」の質問に対して、「書こうと思うものの中から、書くことを決めること」を選んだ児童の割合は約20%であった。一方で「自分の考えが、はっきり伝わるようにくふうして書くこと」を選んだ児童の割合は約50%であった。書く内容を決定することに抵抗感を感じている児童は少ないが、自分の考えを基に、根拠をもって伝える文章を書くことに困難さを感じている児童が多いといえる。このことから、本単元では「書くこと」の学習の中でも「考えの形成・記述」に重点をおいた学習活動を展開させる。
- 国語科の学習に困難さを感じている児童が多く、導入である程度具体的な学習内容を明確にし、学習の見通しを十分にもたせる必要がある。

### (3) 教材観

本教材文の最大の特徴は、「対比的な段落構成」である。本教材での対比関係は、段落構成と相まって非常に分かりやすくなっている。写真や図と本文とを対応させて読むことによって、明快な段落構成への理解が一層深まるものと考えられる。

本来は、初めに練習教材として「思いやりのデザイン」を読み、対比関係などの段落構成を学ぶ。そして「アップとルーズで伝える」を本教材として「思いやりのデザイン」を読んで学んだことを活かして読み取り、段落構成への理解を深める。さらに、その後に設けている「考えと例」によって、説明文で学んだことを情報と情報との関係から捉え直し、「書くこと」に関連する力を身に付けさせることを目指す教材構成である。

しかし今回は、学習の見通しをもたせるため「考えと例」を導入教材として扱い、本単元での具体的な学習内容を明確にする。そして、文章の段落構成と写真の配置が対応していて分かりやすく構成されている「アップとルーズで伝える」を練習教材として扱い、実際に筆者の考えと例がどこにどのように書かれているのか読み取る活動を通して段落構成への理解を深める。その後、短い文章で段落構成が分かりやすくまとめられている「思いやりのデザイン」を復習教材として読む活動を通して、「読むこと」に関連する力の定着をねらう。最後に、「考えと例」の学習を振り返り、本単元で学んできた段落構成を意識して、児童自身が身近なテーマとして「好きな遊び」について伝える文章を書く活動を行うことで「書くこと」に関連する力の育成を図る。

## 6 研究主題との関連

### (1) 具体化・抽象化思考力を高めるための手立てについて

本単元においては、「抽象〔＝筆者の考え（読むこと）、自分の好きな遊びの系統（書くこと）〕と「具体〔＝それらを支える理由や事例〕」を関連付ける。自分の好きな遊びの種類という具体的な事象から、自分の好きな遊びの系統へ抽象化する。または、自分の好きな遊びの系統（抽象）から、それを支える事例としての自分の好きな遊びの種類へと具体化する児童もいると考えられる。

「書くこと」の活動においては、思考ツール（ワークシート）を用いて自分の好きな遊びの系統（抽象）とそれを支える事例としての遊びの種類（具体）を明確にできるようにした。自分の好きな遊びの種類（具体）を挙げ、その後遊びの共通点を言語化することで好きな遊び（抽象）を明確にしたり、具体と抽象を意識しながら記述したりすることを通して具体化・抽象化思考力の高まりを期待する。

### (2) 具体化・抽象化思考力を高めるための「書くこと」の重点について

⑤考えの形成 ⑥記述

## 7 単元の指導計画と評価計画(全8時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)
第1時	「考えと例」を読み、「考え」と「例」の関係について考えることができる。 学習の見通しをもち、活動に意欲をもつことができる。	○「考えと例」を読み、学習の見通しをもつ。	アー①
第2時	「アップとルーズで伝える」の話題と文章構成を捉えることができる。	○「アップとルーズで伝える」を読む。 ・話題を捉える。 ・段落に番号をつけ、文章構成を確かめる。 ・筆者の考えの書かれ方について確かめる。	アー① イー①
第3時	「アップとルーズで伝える」を読み、各段落の内容を捉えることができる。	○本時のめあてを確認し、全文を読む。 ○各段落に書かれていることを捉える。	アー② イー①
第4時	対比的に説明されている内容を捉え、その説明のよさについて考えることができる。	○第4段落と第5段落の内容を捉え、第6段落との関係について考える。 ○対比して説明することのよさについて考える。	イー①
第5時	筆者の考えを捉え、筆者の考えに対する自分の考えをもつことができる。	○第7段落を確認する。 ○第8段落を読んで筆者の考えを確かめ、それに対する自分の考えをまとめる。	イー②
第6時	自分の考えを交流し、「アップとルーズで伝える」の学習を振り返ることができる。	○グループごとに前時に考えた意見を発表し、感想を伝え合う。 ○物事を伝えるときに大切なことは何か、気を付けるとよいことは何かを考える。	イー② ウー①
第7時	「思いやりのデザイン」を読み、話題と文章構成を捉えることができる。	○前時までの学習を活かして、「思いやりのデザイン」を読む。 ○筆者の考えと文章構成を捉え、内容の大体をつかむ。	アー① イー①
家庭		○自分の好きな遊びの種類と自分の好きな遊びについて、ワークシートに記入する。	
第8時	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる	○記入したワークシートを基に、自分の好きな遊びについて作文する。 ○書いた文章をタブレット端末を用いて共有し、感想を伝え合う。	イー③ ウー①



(3) その他

- 反転学習：書く内容を明確にするため、自分の好きな遊びについてワークシートに記入してくる。
- タブレット端末の活用：文章を Teams で共有し、感想を伝え合う。

**8 研究の視点**

- ・本時の学習活動にみられる児童の姿は、具体と抽象を往還しているものであったか。
- ・本時の学習は、児童の「書くこと」における「⑤考えの形成」「⑥記述」に関わる力を高められる内容であったか。

## 高学年分科会提案

### 1 目指す児童の姿

「具体」「抽象」を明確に意識しながら情報を整理したり関連を明らかにしたりして、「書くこと」において文章の構成を検討したり、自分自身の考えを形成したり、構成や考えをもとに記述したりすることで、「書くこと」の力を高めている児童。

### 2 研究の手立て

#### (1) 具体・抽象の往還について

・文中の図や非連続型テキストにおける「具体」「抽象」の往還

⇒文章において、筆者の考えを具体的に示したり、より明確に表したり、考えを支える根拠としたりするために、本文中に図や非連続型テキストが使用されることがある。それらを漠然と読み進めるのではなく、本文中における役割や効果について「具体」「抽象」に整理し、筆者の主張や論理展開をスムーズに理解できるようにする。

⇒「書くこと」においては、「読むこと」で分類し整理した「具体」「抽象」の考えを基盤として構成を検討したり自分の意見や考えを形成したりすることで、文章を書くときに意図的に「具体」「抽象」を意識し、またそれらの整合性を確かめながら記述できるようにする。

⇒「具体」「抽象」については、簡単な思考ツールを使って本文、資料、筆者の考えや論理展開（構成）を読み取ると同時に、文章を書くときにも自分の思考を整理しつつ書くことができるようにする。

#### (2) 「書くこと」の重点項目について

・本校高学年児童の特徴として、「考えの形成・記述」に肯定的な意見を示す児童が少ない。

⇒「書くこと」において、上記の「具体」「抽象」の考え方を用いて、できる限り抽象化された自分の考えを持ったうえで具体的な情報と結び付け、記述につなげることで「考えの形成・記述」をスムーズに進めるとともに、能力のみならず達成感による自己評価の向上を見込む。

#### (3) 「書くこと」の指導における留意点

・言語活動における対象の明確化

⇒「書くこと」における重要な事項として「誰のため／何のために書くか」という点が挙げられる。書く対象を明確化し、相手意識や目的意識を持たせることで活動の焦点化を図るとともに意欲の継続につなげる。

・「読むこと」→「書くこと」の連続性

⇒「書くこと」が単一の時間で設定されている場合、良い文章や表現について児童が納得できずに学習活動が進むことが多く、また書いた文章を読むときの観点も不明瞭になることがある。「読むこと」において獲得した観点到に沿って自他の文章を評価することにより、推敲や共有のときに考える足掛かりとすることができる。

**国語科学習指導案**  
**研究主題：KAKETA！！**  
**—具体と抽象を往還する子供たち—**

日 時 令和4年5月25日(水)  
 5 校 時 13:30～14:15  
 学校名 狛江市立狛江第五小学校  
 対 象 第5学年3組 37名  
 会 場 3階 5年3組教室  
 授業者 教諭 富岡 佑太

1 単元名 調べたことを正確に報告しよう  
 「みんなが過ごしやすい町へ」(光村図書 国語五)

2 単元の目標

- ・ 文章の構成や展開、文章とその種類とその特徴について理解することができる。〔知識及び技能〕
- ・ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

- ・ 調べたことを報告する文章を書く。  
 (関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ウ)

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①文章構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。	①目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。 ②道筋の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。 ③引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	①粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、報告する文章を書こうとしている。

## 5 指導観

### (1) 単元観

- 小学校学習指導要領解説国語編第5学年のB書くこと(1)エ「引用したり、図表やグラフなどをいたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。」を受けて設定した。
- 単にそのまま文や言葉を書き抜くのではなく引用する目的を意識することにより、難しい言葉を説明したり自分自身の考えを補強したりすることにつなげる。

### (2) 児童観

- 本学級の児童は、第2学年以降、調べたことを報告する学習活動を行っている。本単元では、自分の考えを明確にしたうえで調べたことを正確に報告する学習活動を行う。
- 前単元「目的に応じて引用するとき」では、目的に応じた情報の集め方について学習を進めてきた。本単元では、集めた情報を分類し、自分の考えや伝えたいことを明確にしたり、考えを補強するための情報を集めたりしながら内容や構成を検討する力を身に付けさせたい。
- 「書くこと」に関する意識アンケートでは、「文章を書くことは好きですか」の質問に対し、およそ70%の児童が肯定的な回答をしている。
- 「文章を書くことは得意ですか」の質問に対して肯定的に回答する児童の割合はおよそ40%であり、「文章で書くときに難しいと感じることは何ですか」の質問に対しては「書こうと思うものの中から、書くことを決めること」「書く内容の関係を考えて順序や段落を決めること」を選んだ児童の割合がいずれも70%を超えている。情報同士を関連させて伝えたいことを明確にしたり、内容や構成を検討したりすることに課題があると考えられる。  
一方で「書くための材料を集めること」については10%程度の児童が選んでおり、情報収集については苦手と感じている児童が少ないことがわかる。前項との関わりから、集めた材料を整理したり、書く順序を決めたりする過程が児童の困難さの要因であると考えられる。本単元に説いては、「情報の収集」から「内容の検討」に接続する過程の学習にも重点をおいた学習活動を展開させたい。
- 「5分間で100文字以上の文章を書くことができる」児童の割合はおよそ40%であり、自分の考えたことを短時間で文章に表すことについては半数以上の児童が課題をもっている。先述した情報同士の関連から伝えたいことを明確にし、構成を検討する力を身に付けさせることで、思考の流れをスムーズにしながらい記述することができるようにしたい。

### (3) 教材観

本単元では、自分たちの住む地域の福祉・共生に関わる問題を扱っている。児童が、自分自身にとって身近であり、かつ調べて分かることを題材とすることができるようにしたい。身近な問題から離れてしまうと自分事として考えることができなため学習の必然性が乏しくなる。自分の考えや伝えたいことを明確にするためにも、児童の関心を大切にして学習活動を展開したい。

## 6 研究主題との関連

(1) 具体化・抽象化思考力を高めるための手立てについて

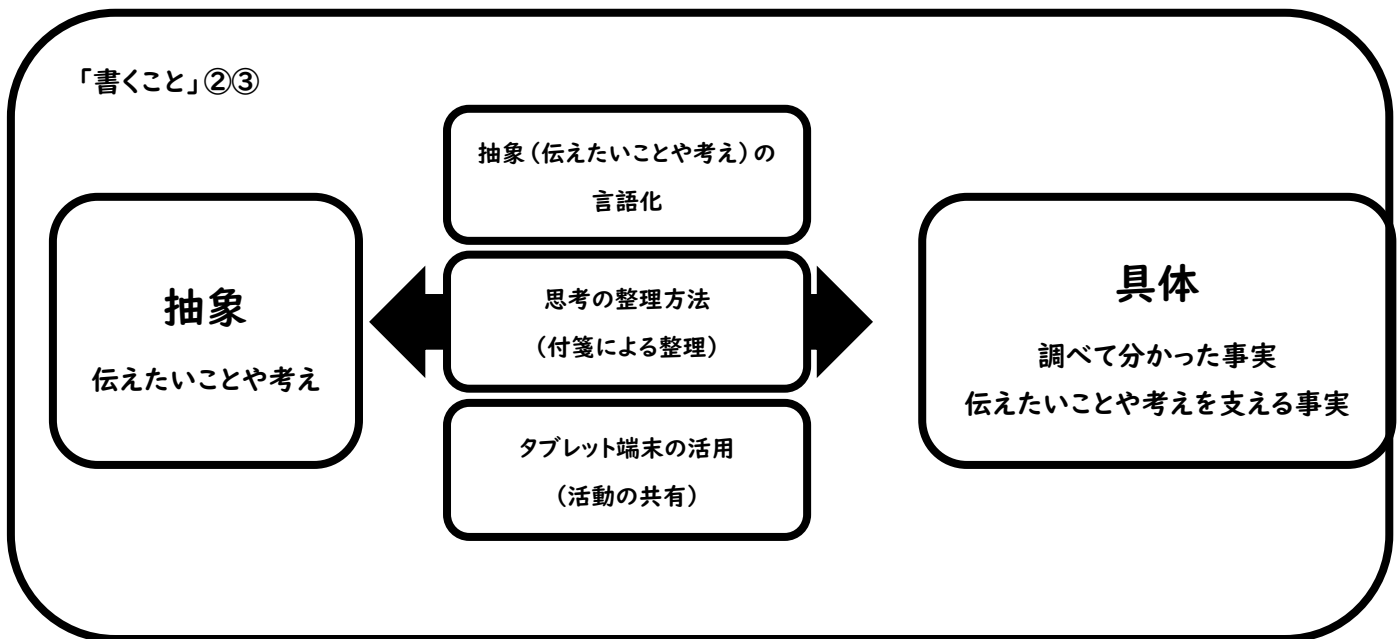
本単元においては、「抽象（＝伝えたいこと・考え）」と「具体（＝調べて分かった事実・伝えたいことや考えを支える事実）」を関連付け、自分が伝えたいことをもとに情報を集めて関連付けたり、集めた情報から自分の考えを明確にしたりする学習活動を通して、具体化・抽象化思考を高める。

活動にあたっては、「伝えたいことや考え」と「集めた情報（伝えたいことや考えを支える事実）」の区別や関連が明確になるツールを使用し、具体と抽象の性質の違いやつながりについて意識を持つことができるようにする。また、伝えたいことをもとに情報を集めて関連付ける活動と、集まった情報から自分の伝えたいことをより明確にする活動を並行して行うことで、具体化・抽象化それぞれの思考力がはたらくことを期待する。

活動の中ではタブレット端末を活用し、他の児童の活動内容を常に共有する。情報の整理に対してメタ的な視点をもたせることで、子供たち自身に「具体化・抽象化思考力」を意識させたい。

(2) 具体化・抽象化思考を高めるための「書くこと」の重点について

②情報の収集 ③内容の検討



7 単元の指導計画と評価計画(全9時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)
1・2	調査報告文の特徴について考え、目的や意図に応じて感じたことや考えたことから書くことを選ぶことができる。	<p>○ 学習課題・学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「みんなが過ごしやすくなる工夫」に関心を持ち、学習課題を設定する。</li> <li>・ 報告する文章の書き方についてイメージを持ち、学習計画を立てる。</li> </ul> <p>○調べるテーマや調べ方を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が調べようと思うテーマを決める。</li> <li>・ 調べ方の特徴を整理し、自分に合った調べ方を決める。</li> </ul>	<p>アー①</p> <p>イー①</p> <p>ウー①</p>
家庭		○ 個人で情報を集める。	
3～8	<p>集めた情報を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。</p> <p>筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる。</p> <p>引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。</p> <p>文章に対する感想や意見を伝え合うことができる。</p>	<p>○調べた情報を分類、整理し、伝えたいことを中心となる事柄を決める。</p> <p>○組み立てメモを作成する。</p> <p>○組み立てメモをもとにして、下書きをまとめる。</p> <p>○観点に沿ってペアで下書きの文章を読み合って意見を伝え合う。</p> <p>○清書する。</p>	<p>アー①</p> <p>イー①</p> <p>ー②</p> <p>ー③</p> <p>ウー①</p>
9	文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の良いところを見つけることができる。	<p>○感想を交流する。</p> <p>○単元の学習を振り返り、今後への生かし方を考える。</p>	イー③

## 8 本時(9時間中の第3時)

### (1) 本時の目標

○集めた情報(具体)を分類したり関連付けたりして、伝えたいこと(抽象)を明確にすることができる。

### (2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○本時のめあてを確認する。	◇報告する文章を書く目的を確認する。 ◇数人の児童の調べた内容を確認し、前時までの学習活動を想起させる。	
報告したいことを決めるために、調べた情報を整理しよう。			
展開 35分	○調べてきたことを分類・整理し、伝えたいことの中となる事柄を決める。	◇情報の整理の仕方を確認し、円滑に活動を始められるようにする。 ◇調べてきたことと伝えたいことについて、並行して整理してよいことを伝える。 ◇タブレット端末を活用し、全員の活動状況を共有できるようにする。 ◇他の児童の活動も参考にしてよいことを知らせたり、途中で整理の仕方を再度確認したりして、進捗や方針を確認する。	イー① (ワークシート) 集めた情報を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。 ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	

## 9 研究の視点

○本時の学習活動にみられる子供の姿は、具体と抽象を往還しているものであったか。

- ・本時における「具体」とは「集めた情報」であり、「抽象」とは「集めた情報」を支えとした「伝えたいこと」である

○本時の学習は、児童の「書くこと」の「②情報の収集」「③内容の検討」に関わる力を高められる内容であったか。

**第五学年国語科学習指導案**  
**研究主題：KAKETA！！**  
**—具体と抽象を往還する子供たち—**

日 時  
 学校名  
 対 象

令 和 4 年 1 1 月  
 狛江市立狛江第五小学校  
 第5学年1組・2組・3組

- 1 単元名 資料を使って説明しよう  
 「固有種が教えてくれること」今泉忠明  
 「統計資料の読み方」  
 「グラフや表を用いて書こう」(光村図書 国語五)

2 単元の目標

【読むこと】

- ・ 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。〔知識及び技能〕
- ・ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

3 本単元における言語活動

- ・ 筆者の説明の工夫について考えをまとめて話し合ったり、学校図書などを利用して調べた統計資料を根拠に、意見文を書いたりする。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 A(2)ア、B(2)ア、C(2)ア)

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。	① 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 ② 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。 ③ 「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。	① 粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、報告する文章を書こうとしている。



## 5 指導観

### (1) 単元観

- 小学校学習指導要領解説国語編第5学年・第6学年のB書くこと(1)ア「考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。」エ「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。」(2)ア「事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動」を受けて設定した。
- 「読むこと」の活動において、筆者の主張を中心に文章の論理展開を読み取り簡潔にまとめ、読み取ったことをもとにして「書くこと」の活動につなげ、書いた文章をもとに「話すこと」の説明につなげる。

### (2) 児童観

- 「書くこと」に関する意識アンケートでは、書くことに対する意欲に関する質問に対し、約65%の児童が肯定的な回答をしている。一方で書くことに対する自己評価は約50%の児童が肯定的な回答である。「書くこと」における学習活動を「読むこと」と関連させることで、体系的に技能を高め、自己評価を高めたい。
- 「書くこと」の各項目における児童アンケートでは、「情報の収集」「内容の検討」については約70%の児童が肯定的にとらえている。一方で、「考えの形成・記述」に対しては約60%の児童が否定的にとらえている。集めた情報を自分の考えと関連させて記述する方法を学び、書くことにおける技能や自己評価の高まりにつなげたい。

### (3) 教材観

本単元における「読むこと」の教材である「固有種が教えてくれること」においては、筆者は非連続型テキストを効果的に用いて自らの主張を展開している。統計資料をはじめとする非連続型テキストは、児童にとっては単独で読み取る資料としての認識が強い。筆者の論理展開を簡潔に整理し、資料と本文との対応を視覚的に表すことで理解を促したい。

## 6 研究主題との関連

### (1) 具体化・抽象化思考力を高めるための手立てについて

本単元では、「読むこと」の学習において「具体（統計資料や本文）」と「抽象（筆者の主張・論理展開）」を結びつけて書く方法を理解する。学習して身に付けた力を活用して、「書くこと」の学習において「具体（統計資料）」と「抽象（自分の主張・論理展開）」に結びつけ、さらに「具体（意見文）」として展開する学習活動を通して、「具体化・抽象化思考力」を高める。

「読むこと」の活動においては、筆者の主張を読み取り、統計資料をもとに筆者の論理展開を整理する活動を通じて、非連続型テキストには筆者の主張を支える効果があることに気付けるように簡略化してまとめる思考ツールを用いて学習を進める。「書くこと」の活動においては、「読むこと」で活用したものと同様のツールを用いて具体と抽象の整合性を確認しながら活動を行う。

活動の中では対話を通して他の児童の活動内容を常に共有する。自分と共通していることや新たな見方・考え方・感じ方に気付き、自分の考えに広がりや深まりが生まれる体験をさせたい。そして、児童一人一人の「具体化・抽象化思考力」を高めたい。

### (2) 具体化・抽象化思考を高めるための「書くこと」の重点について

- ⑤ 考えの形成
- ⑥ 記述

## 7 単元の指導計画と評価計画(全13時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)
1	日本の固有種について関心をもち、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとするができる。	○学習課題・学習計画を立てる。 ・日本の固有種に関心をもち、学習の見通しをもつ。 ・意見文の書き方についてイメージをもちながら、学習計画を立てる。	ウ① (発言・振り返り)
2	文章の構成や筆者の主張を確認し、文章の内容の大体を捉えることができる。	○本文を読み、文章の構成を序論・本論・結論に分ける。 ○結論から筆者の主張を読み取り、簡潔な言葉で整理する。	イ② (発言・ノート・振り返り)
3・4	資料と文章とを結びつけたりその効果を考えたりして、筆者の論理展開を捉えることができる。	○資料を読み、それぞれの資料からわかる事実や資料を通して筆者が伝えたいことを簡潔に整理し、本文の論理展開を捉える。 ○資料に対応する本文を抜き出し、資料と文章との関連を捉えるとともに、資料の効果について理解する。	イ② (発言・ノート・振り返り)
5	筆者の主張や論理展開をもとに、文章の要旨をまとめることができる。	○読み取って整理した情報と筆者の主張をもとに、文章の論理展開に沿って本文の要旨を整理する。	イ② (発言・ノート・振り返り)
6	意見文を書くために自分の主張や題材を決め、整理することができる。	○3年生に伝えたい自分の意見や題材について決定し、共有する。 ○自分の意見を主張するために必要な論理展開について簡潔な言葉で整理する。	ア① (発言・振り返り)
課外		○自分の主張や論理展開に応じて資料を探したり、必要に応じて統計資料を作成したりする。	
7・8	自分の主張や論理展開に沿って構成や内容を考え、整理することができる。	○前時で考えた論理展開をするために必要な情報や統計資料を集め、文章の構成を考える。 ○自分のしたい主張や論理展開と集めた情報などの関連について考え、構成や内容を決定する。	ア① イ① (ノート・振り返り)
9・10	構成や表現を工夫して、意見文を書くことができる。	○構成に沿って本文を記述する。	ア① イ① ウ① (ワークシート・振り返り)
11	これまでに注意してきた観点を意識して文章を読み合い、良いところを見付けることができる。	○主張と論理展開の整合性や資料の効果的な活用について意識しながら友達の記事を読み、良いところを伝え合う。	イ②
12・13	意見文をもとに、資料を活用して自分の考えが伝わるように話す内容を決めることができる。	○相手に伝わるように資料や話す内容を決め、プレゼンテーション資料を作成する。	イ③ (プレゼンテーション資料・振り返り)
課外		○3年生に自分が作成したプレゼンテーションを紹介し、自分の意見や考えを伝える。	

**国語科学習指導案**  
**研究主題：KAKETA！！**  
**—具体と抽象を往還する子供たち—**

日 時 令和4年11月30日(水)  
 5 校 時 13:30～14:15  
 学校名 狛江市立狛江第五小学校  
 対 象 第6学年1組 32名  
 会 場 3階 6年1組教室  
 授業者 主幹教諭 赤坂 淳

1 単元名 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう  
 『鳥獣戯画』を読む  
 日本文化を発信しよう（光村図書 国語六）

2 単元の目標

- ・ 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げるために役立つことに気付くことができる。〔知識及び技能〕
- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・ 文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取り、構成を工夫して書き表そうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

- ・ 調べた情報を知らせる解説文を書く。  
 （関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 B(2)ウ）

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
② 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。	①「読むこと」において、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。 ②道筋の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。 ③引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	② 文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって解説文を書こうとしている。

5 指導観

(1) 単元観

- 小学校学習指導要領解説国語編第6学年のB書くこと(1)ア「考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。」エ「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。」(2)「事柄のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと」を受けて設定した。
- 「読む」活動において、「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりする力」を高める。その力を「書く」活動で活用できるよう指導する。

## (2) 児童観

- 「書くこと」に関する意識アンケートでは、書くことに対する意欲に関する質問に対し、およそ70%の児童が肯定的な回答をしている。一方で書くことに対する自己評価は50%の児童が肯定的な回答である。
- 情報収集については65%の児童が肯定的にとらえており、内容の検討についても70%の児童が肯定的である。一方で、構成の検討や考えの形成に対しては50%の児童が肯定的にとらえている。
- これまでの学習では、事実を基に分かりやすく説明する文章を書くことは経験している。自分の感想を加えて説明する解説文は初めての経験である。実際に書いてみたところ、ほとんどの児童が、見たことを記述する文章になっていた。

意欲的ではあるが、実際に書いてみると思い描いていたように書くことができない。様々なソースから情報を集めることはできるが、集めた情報から必要な事柄を取り出したり、整理したりすることに課題があると考えられる。本単元においては、読みの学習で図表から「情報を取り出す」「内容を検討する」「自分なりの考えを形成する」「読み手に伝わる表現で書く」ことを学習し、書く学習に接続する学習活動を展開する。読みの学習を書くの学習に接続させることにより、学習の成果を実感したり、意欲の持続に繋がりたいと考える。

## (3) 教材観

本単元では、筆者は『鳥獣人物戯画』の価値について特徴的な視点や表現方法によって説明している。本教材の絵の見せ方や読み手を引きつける表現の工夫は、児童にとって新鮮なものである。前半の読む学習でこのような筆者の表現方法を捉えたうえで、後半の書く学習で、日本文化の価値を伝えるために文章を書く活動を設定した。

このような学習の流れを設定することで、読むことの学習で育んだ力が思考を促し、自らの言葉で説明する力を育むことができると考えた。

## 6 研究主題との関連

### (1) 具体化・抽象化思考力を高めるための手立てについて

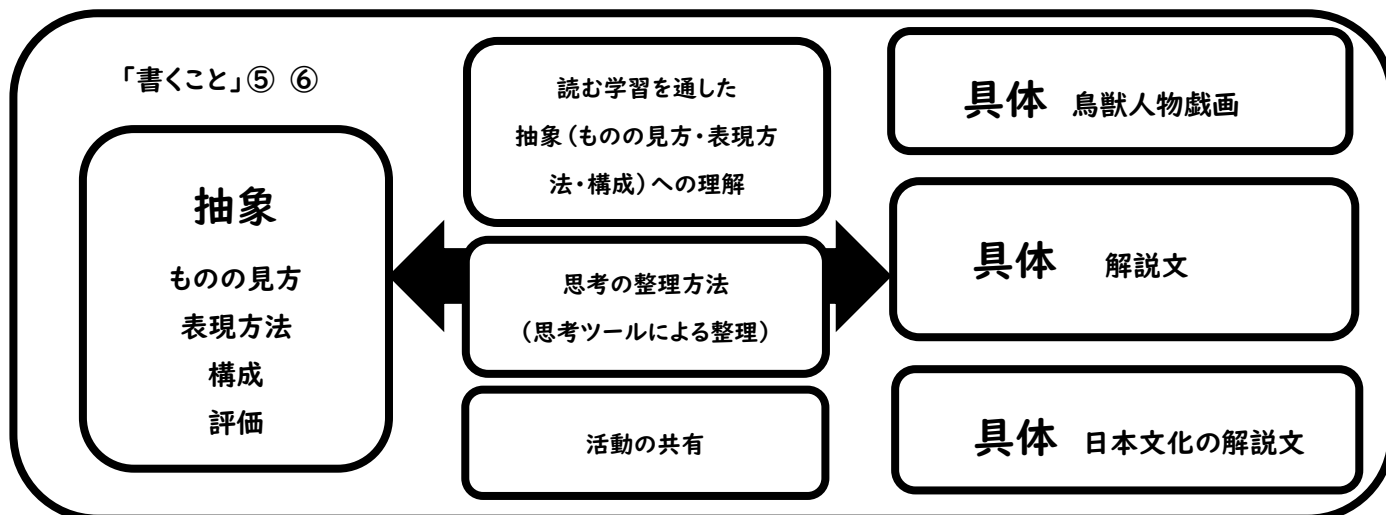
本単元においては、読む学習において「具体（図表・・・鳥獣人物戯画）」と「抽象（筆者のものの見方・表現・構成）」を結びつけて書く方法を理解する。そして学習して身に付けた力を活用して、「具体（図表・・・日本文化）」と「抽象（自分のものの見方・表現・構成）」に結びつけ、さらに「具体（解説文）」へと変換する学習活動を通して、具体化・抽象化思考力を高める。

活動にあたっては、読む活動を通じて、絵画から文化的価値に着目することや読み手を意識した表現に気付くことができるようステップを踏んで学習する。また、読む学習を活かし、日本文化を解説する活動をゴールとすることで、具体化・抽象化それぞれの思考力がはたらくことを期待する。

活動の中では対話を通して他の児童の活動内容を常に共有する。自分と共通していることや新たな見方・考え方・感じ方に気付き、児童に自分の考えに広がりや深まりが生まれる感動を感じさせたい。そして、児童一人一人の「具体化・抽象化思考力」の高まりを育みたい。

### (2) 具体化・抽象化思考力を高めるための「書くこと」の重点について

- ⑤ 考えの形成
- ⑥ 記述



7 単元の指導計画と評価計画(全10時間)

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)
1	「鳥獣戯画」について関心をもち、学習の見通しをもって日本文化を発信していこうとすることができる。	○学習課題・学習計画を立てる。 ・「鳥獣戯画」に関心をもち、学習課題を設定する。 ・解説文の書き方についてイメージをもち、学習計画を立てる。	ウー① (発言・ワークシート)
2	目的に応じて、考えを効果的に伝えるための表現や構成の工夫について捉えることができる。	○『鳥獣戯画』を読む」1、2段落の文章を絵と結び付けて読み、筆者の表現の工夫に気付く。	アー① イー① (発言・ワークシート)
3	目的に応じて、考えを効果的に伝えるための表現や構成の工夫について捉えることができる。	○第2時で気付いた表現の工夫をもとに、『鳥獣戯画』を読む」の3段落以降を読み、表現の工夫をさらに捉え、まとめる。	アー① イー① (発言・ワークシート)
4	目的に応じて、考えを効果的に伝えるための表現や構成の工夫について捉えることができる。	○筆者が行っている論の展開のしかたを捉える。	アー① イー① (発言・ワークシート)
5	筆者が絵の描き方や絵巻物についてどんな感じ方や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができる。	○筆者が用いている絵や絵巻物を評価する言葉に着目し、まとめる。	アー① (発言・ワークシート)
6 (本時)	自分の言葉で絵を評価し、考えを広げたり深めたりすることができる。	○教科書とは別の『鳥獣戯画』の1場面について自分なりに評価し、解説文を書く。 ○絵の見方や評価の言葉を交流する。	アー① イー③ ウー① (発言・ワークシート・解説文)
課外		○発信する事柄や調べ方を決める。 ・自分が調べようと思う文化を決める。 ・調べ方の特徴を整理し、自分に合った調べ方を決める。	
7	日本文化を発信するリーフレット(解説文)を作るための題材を決め、整理することができる。	○思考ツールを用いて、着目点(部分・全体)を意識しながら、解説する項目を整理する。	アー① (発言・ワークシート)
8・9	構成や表現を工夫して、リーフレット(解説文)を書くことができる。	○第2時から6時までの学習を活かし、海外の人にも日本文化が伝わるようなリーフレットを作成する。	アー① イー②・③ ウー① (発言・ワークシート・解説文)
10	構成や表現の工夫などに着目しながら、互いのリーフレットのよい点を伝え合い、学びを確かめることができる。	○感想を交流する。 ○単元の学習を振り返り、今後への生かし方を考える。	アー① イー②・③ ウー① (発言・ワークシート)

課外		○日本文化の解説文をエチオピアの大 使館の方に読んでもらう。	
----	--	-----------------------------------	--

## 8 本時(10 時間中の第 6 時)

### (1) 本時の目標

○絵を見て読み取ったことを基にして、自分の言葉で絵を評価し、解説文を書くことができる。

### (2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	◇指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 5分	○本時のめあてを確認する。 ○既習の筆者のものの見方や「読み取ったことや感じたことを表す表現の仕方」を思い出す。	◇解説する文章を書く目的を確認する。 ◇既習内容(筆者のものの見方、評価、表現方法)を簡単に確認し、前時までの学習活動を想起させる。	
『鳥獣戯画』の評価を基に、解説文を書いてみよう。			
展開 35分	○『鳥獣人物戯画』の中の一枚の絵を見て、自分なりの言葉をつかって絵を評価したことを交流する。  ○評価した事柄を解説する文を書く。  ○交流する。	◇評価の観点として ①絵から想像したり、感じたりしたこと ②絵の素晴らしいところの2点を確認する。  ◇他の児童の活動も参考にしてよいことを知らせたり、途中で整理の仕方を再度確認したりして、進捗や方針を確認する。 ◇自分なりの言葉で評価していることや、筆者の表現方法を使って解説文を書いていることを称賛し、価値付ける。	イー① 「読むこと」において、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。  ウー① 文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって解説文を書こうとしている。 (発言・ワークシート・解説文)
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。 ○次時の学習の見通しをもつ。	◇本時で身に付いた力について、めあてとの関連を意識して記述するよう促す。	

## 9 研究の視点

○本時の学習活動にみられる子供の姿は、具体と抽象を往還しているものであったか。

・本時における「具体」とは「鳥獣戯画」「解説文」であり、「抽象」とは「絵画」への「評価」である。

○本時の学習は、児童の「書くこと」の「⑤考えの形成」「⑥記述」に関わる力を高められる内容であったか。